

地歴公民科「政治・経済」授業実践紹介

授業者：八幡 信哉

学 年：3年

単元名：労働問題～それで働き続けられますか？SDGsの視点で考える2～

単元のねらい（7つのチカラ：考える力・コミュニケーション力・チームワーク力）

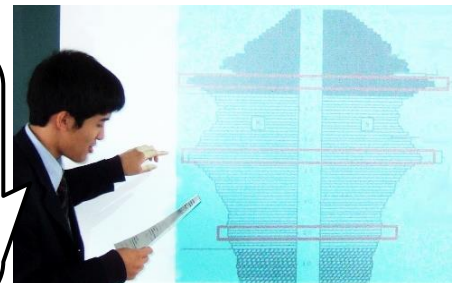
- ①第3次ベビーブームはなぜ来なかったかについて雇用との関係で捉えさせ、日本の就職氷河期・ロスジェネ世代の現状や非正規雇用について現状と解決すべき課題について考えさせる。
- ②過労死と働き方改革、逆行する就業制度・高度プロフェッショナル制度や裁量労働制対象拡大などの問題、人手不足と外国人労働の拡大など労働問題の現状や課題について考えさせる。
- ③働き方改革から取り残される地方の勤務医や研修医、教師について過労死はふせげるのか？などをテーマに解決すべき課題と改善点をSDGsの視点で考えグループで意見交換をする。

単元の流れ

- ①人口ピラミッドを見て第3次ベビーブームはなぜ来なかったかについて労働問題との関係で説明できる。
非正規雇用の増加や就職氷河期世代の置かれている現状と課題について気づいた問題点をOPPシートに記入する。(1時間)
- ②働き方改革関連法で過労死はふせげるのか？月100時間の残業時間上限規制、人手不足のドライバーは5年間猶予、働き方改革から取り残される地方の勤務医や教師の働き方について問題点をOPPシートに記入する。(1時間)
- ③働き方改革に逆行する就業制度・高度プロフェッショナル制度や裁量労働制対象拡大などの問題について考える。
人手不足と外国人労働の拡大などの現状や課題について気づいた問題点をOPPシートに記入する。(1時間)
- ④働き続けられる労働環境を実現するために、テーマごとにグループで意見交換をするパフォーマンス課題と振り返りシートへの記述に取り組む。(1時間)



第2次ベビーブーム世代がちょうど就職氷河期世代にあたり、新卒で正社員になれず、結婚もできなかったことで、第3次ベビーブームが来なかった。



パフォーマンス課題・グループでの意見交換のテーマ

- ①第3次ベビーブームはなぜ来なかったのか？本当に解決すべきことは何か？
- ②就職氷河期・ロスジェネ世代の雇用をどうすべきか？
 - ・国の施策の問題点は？・痛めつけられた人を救うためにはどうすればいいのか？
- ③医師の働き方改革の問題点と対策は？
 - ・どうすれば地方にも医者を増やすことができるのか？
- ④教師の働き方改革の問題点と対策は？
 - ・教師の働き方の工夫がたりないのか？・仕事が多すぎるのか？・人や予算をつけないのが悪いのか？

単元を通して身につけてほしいこと

過労死や派遣労働など日本の労働環境の現状や法律や制度などの学習を踏まえたうえで、まとめとして、グループになり問題点を話し合う。最初気づかなかった問題点を他の生徒の指摘で気づいたり、自分の考えを発表したり話し合ったりすることで、課題に対する改善策を提案できるようになってほしいと考えている。そして、この単元での学習を通して、日常生活の場面においても、社会が抱えている様々な課題に気づき、改善策を提案できる生徒になってほしいと考えている。

実践の背景

- 生徒は、普段から新聞記事に触れる機会がなく、スマホでネットのニュースにしか接することができない環境にある。そのうえ、閉谷學の探究学習の取り組みをしても、インターネットのサイトから必要な情報を探し出すことも苦手になっている生徒が増えているように感じている。
- これまで政治・経済の授業の最初に、新聞記事を課題として与え、時事問題について一分間スピーチに取り組みせ、生徒に人前で発表する機会を与えてきた。授業でもテーマや課題を設定し、振り返りの中で意見を記述させたり、グループでの話し合いを通して、主体的な学びの能力を身につけさせるとともに、自分の考えが他者に伝わるように、根拠を示して説明できる力を身につけさせることができるようになればと考えている。

授業改善のアプローチ

- 一分間スピーチでは、授業者が各自に記事を与え、記事の読み取りのポイントや発表のポイントを示すことで、生徒が根拠を示して問題点や改善点を指摘できるように取り組みさせた。
- 働き方改革の新聞記事を課題として取り組みさせた。地方の勤務医が働き方改革から取り残されている現状と課題について事前に考えさせた。
- 単元の最後に、グループになり学習した内容や事前の新聞記事から課題を読み取らせ、自分の考えを発表したり話し合ったりすることで、自分では気づかなかった点や違うものの見方に触れ、課題への理解を深め、さらには問題解決に取り組むことができるような活動を取り入れた。

生徒の変容（OPPシートの記述や意見交換後の生徒の振り返りシートの記述から）

① 本時の授業で気づいた点

- ・非正規雇用が4割近くいる。・派遣労働法の改正により、人を変えれば派遣を使い続け3年で雇止めになり正社員への道が閉ざされる。・高度プロフェッショナル制度や裁量労働制などいくら働かせても残業代をださなくてもいい仕組みだ。・技能実習生が研修とは無関係な仕事で低賃金で働かされている。
- ※OPPシートの記述でも、自分が授業の中でこれは問題だなと思うことを記述できるようになった。

② パフォーマンス課題・グループでの意見交換

- a 就職氷河期世代の正社員化について ・90万人いるといわれるのに、3年30万人の正社員化では後の人はどうなるのか。 ・将来、生活保護を受ける人が増えるという理由で取り組むのはおかしい。 ・人手不足の介護の分野で働かせればいいと思っているのか。 ・職業訓練も民間任せで、就職させたら成功報酬を払うというが、そのお金を就職支援のサポートにまわすべきだ。 ・3年と期限をつけず、もっと長い期間寄り添いながら仕事につけるようサポートすべきだ。
- b 地方の勤務医の働き方改革について ・地方の医師が足りないからといって普通の医師の倍の時間外勤務を認めているのはおかしい。医師の偏在を解決するのが先だ。 ・地方に医者を増やすためには地方の医学部に進学し、卒業後も地方では働く場合は学費を免除すればいい。地方の医師の賃金を都市の医者より多くする。 ・ローテーションで地方にも経験豊かな医師を派遣させる仕組みをつくる。
- ※事前に取り組んだ医師の働き方改革のワークシートの記述よりも具体的解決策が示せるようになる。

パフォーマンス課題の評価

	2	1	0
I 関心・意欲・態度	意見を積極的に発表したり聴いたりして、課題に取り組めた。	意見を考え、課題に取り組もうとした。	考えるのが面倒で、課題に取り組めなかった。
II 思考・判断 III 技能・表現	記事から問題点や課題を読み取り、グループにわかりやすく説明できた。	グループでの意見交換に加わり、他の考え方も参考にできた。	自分から発言せず、人の意見を聞いても、何も思わなかった。
IV 知識 理解	日本の労働問題の現状や課題について理解し、解決策を提案できた。	日本の労働問題の現状や課題について理解できた。	日本の労働問題の現状や課題について考え理解することができなかった。

①パフォーマンス課題に対する評価 ②一枚ポートフォリオ・振り返りシートによる評価

③NIE 課題「お医者さんの残業 規制されるの?～医師の働き方改革」のワークシートによる評価